親子クイズ 530

Q 次の①～⑤に言葉や数字を入れて、文章を完成させてください。

７月第３月曜日は、日本の国民の祝日の一つである「　①　」です。
これは　②　年に制定されましたが、当初は７月　③　日でした。２００３年（平成１５年）の祝日法改正（通称　④　制度）により、現在の７月第３月曜日になりました。
祝日化される前は「　⑤　」という記念日でした。

①（　　）　②（　　）　③（　　）

④（　　）　⑤（　　）

【第529回解答】

日光東照宮　板垣退助
姫路城　中村重遠

【第529回当選者】

栗山　佐和　（大埇甲）
永野　明　（蛍ヶ丘）
麻岡　文代　（緑ヶ丘）
吉田　礼子　（立田）
中山　恵津子（久枝）

■応募締切／７月12日㈫必着
■あ て 先／〒７８３－８５０１
南国市大埇甲２３０１
南国市企画課「親子クイズ係」
＊はがきで応募
■賞　品／正解者の中から抽選で、５名に図書カード（1,000円）を贈呈

★応募総数／13通　★正 解 率／69％

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

こころ ふれあい つながって 64 人権学習シリーズ

「機械の進歩…」

最近は、機械の進歩が目覚ましく、日々驚かされていることばかりです。

チェスで人間に機械が勝ったのが20年前で、数年前には将棋で、そして先日は囲碁で機械が人間に勝ちました。以前から力やスピードなど多くの面で機械は人間を上回っていたので、今それに驚くことはありませんが、知能までも上回ってしまうことには驚きと同時に不安を感じてしまいます。まさに多くの人の予想を超える速さで技術が進歩しているのは間違いないようです。

人工知能だけでなく、アンドロイド技術にも驚かされています。有名人そっくりのアンドロイドもすぐにはそれが機械と気づかないレベルですし、他にも、ロボット型の携帯電話など人工知能とアンドロイドの技術が一体化して人間に近いものがどんどんできているように思います。

その中で、特に気になったものがありました。それは二足歩行のロボットです。ニコニコ笑ってしまいたくなるような愛嬌ある歩き方をするロボットや、アニメ的ロボットなどたくさんあります。そのようなロボット性能を示すための動画を観る機会がありました。その中では、荷物を運ぼうとするロボットを人間が邪魔をして突き飛ばしたり、転がしたりしていました。そこまでしても、「ロボットは荷物をきちんと運べるんだ」ということを示そうとする目的なのでしょうが、それを見ていると、ロボットが健気でかわいそうに思いました。このロボットはただ機械的に動いているだけなのですが、それでもなぜか感情移入してしまいます。なんだかとても不思議に感じました。

感情のないものにまで、かわいがってあげたいとか、かわいそうだと感じるのは、人間の心根の優しさのように思います。私たち人間はそのような心をもっていることを誇りに思い、いくら技術が進んで行っても、人間だからこそ感じることができる、変わらない優しさを持ち続けていきたいものです。

＊このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
☎８８０・６５６９

にこにこライフ 192

家庭的な会です！

天行寺二十日会の皆さん（天行寺）

毎月二十日に集まってお茶を飲んだり、雑談をしたりしています。始めたのは４、５年前で、公民館の使用がなく空っぽだったので少しでも利用しようとなったのがきっかけです。当時は部落の総会以外ではほとんど使用がなく、後は高速道路の建設のときに活用されたくらいでした。

二十日会では毎回だいたい12名くらいの参加があり、お茶請けなどは各自の持ち寄りで用意しています。みんなで、最近の出来事や様々なことを話したり、お互いに注意喚起しあったりしています。小学生から、独り身の高齢者宛てに手紙が送られるとそれを持ってきて、みんなで見たりもしています。季節の花も飾っており、山にどっさりあるのを持ってきています。

みんなが集まるときに公民館の周りの草を刈ったり、竹の柵を用意したりします。公民館のことは誰かがやるではなく、みんなで、参加できる人が参加して行うようになっています。なにかをやろうとした時に、反対する人はおらず家庭的な会になっています。

神祭のときには、お餅も作るとのことです。天行寺は他の地域と比べて涼しく、とても快適で楽しい会でした！

なんこく歴史散歩 第43回

－亀蔵楊梅の原木－

石碑

楊梅は、高知県の花や南国市の木になっており、果実は土佐や阿波の梅雨時期の風物詩として有名です。特に十市地区は楊梅が多く自生し、高知市に行商しやすいことから嗜好品として江戸時代の宝暦から明和年間（１７５１～１７７１）頃に栽培され始めるようになりました。

中でも、亀蔵楊梅は、十市人形谷の島田亀蔵が幕末頃に高森山の中腹で発見し、接木して繁殖につとめたものと言われています。そして、亀蔵楊梅は、味や色の良さ、果実の大きさから十市を代表する人気の品種となりました。その原木は、亀蔵の子孫が代々管理しており、現在は市の天然記念物に指定され大切に守られています。

原木は亀蔵の子孫所有の山林にあり、幹回り1.5ｍ、高さ10ｍ、樹齢２００年をこえています。幹に痛みは見られるものの、緑の葉が茂り、樹勢は旺盛です。原木の前には、地元有志によって石碑が建立されています。

明治時代になって、広く栽培されるようになった亀蔵楊梅は、近隣の町や村で行商されるようになりました。天秤棒に担がれ、高知の町中を「ももえー。ももえー。お銀のちぎった大ももはえー。」のあでやかな掛け声とともに、売り歩く十市の娘さんの姿は、宮尾登美子著『櫂』や『楊梅の熟れる頃』の中にも生き生きと描写されています。この掛け声のお銀さんは、楊梅取りを仕事としていた美人でたいそう人気があったという伝説が残されているほどです。

この十市の楊梅を一躍有名にした亀蔵は、文久３（１８６３）年に亡くなりました。原木から少し下ったところにある墓に眠っており、今でも原木を見守っています。

亀蔵楊梅の原木

■問い合わせ
生涯学習課文化財係
☎８８０・６５６９

市民からのお便り

（親子クイズ）初参加です。よろしくお願いします。

市民からのお便り

県外の親戚に南国の野菜を月2回、定期的に送ってます。きゅうり・とまと・オクラ・ブロッコリー、etc